

# 安全・安心な護岸

2019(令和元)年9月9日に観測史上最強クラスの勢力で東京湾を通過した大型台風により甚大な被害を受けた護岸を安全・安心な護岸に復旧するとともに人々が憩える遊歩道を整備しました。

## 令和元年の大型台風被害からの護岸復旧



2019(令和元)年9月9日未明に東京湾を通過した令和元年房総半島台風(台風15号)では、観測史上最強クラスの勢力で東京湾各地において、記録的な暴風・波浪を観測するとともに様々な被害を及ぼしました。横浜港では、海面気圧969.1hPa、最大瞬間風速41.8m/sを観測し、特に護岸背後に多くの中小企業が立地する金沢区福浦・幸浦地区では、浸水により甚大な被害を受けたほか、護岸も延長約2.7kmのうち、約800mが倒壊しました。

地元の皆様と連携しながら復興に向けた弛まぬ努力を積み重ね、2021(令和3)年8月に護岸復旧工事が完了しました。あわせて、従前のように海の景色を楽しみながらの散歩や釣りができるよう、復旧した護岸の上部に遊歩道を再生しました。

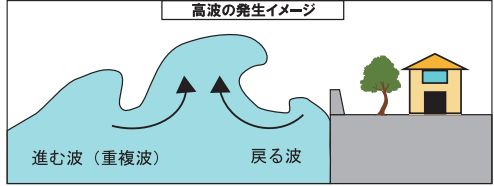
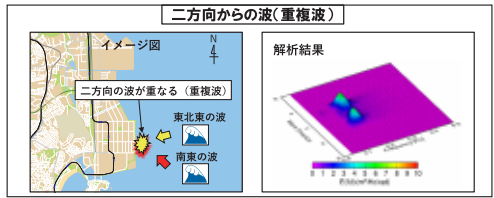
### 台風直後の被害状況

・現地調査の結果、高さ10mを超える高波が押し寄せたと推定され、それにより広範囲で甚大な被害を受けました。



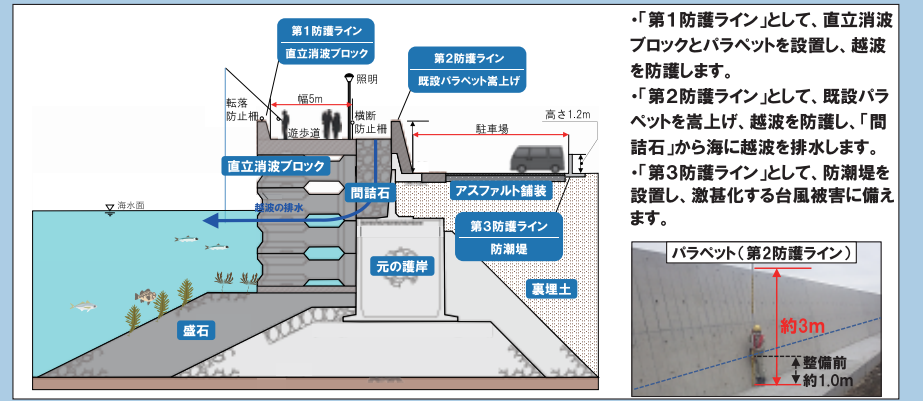
### 高波の発生メカニズム

・強風と急激な波向きの変化により二方向からの波が発生し、さらに、重複波と護岸から戻る波が重なり高波が生じました。



### 復旧護岸の構造的特徴

第1・第2防護ラインとして整備した消波ブロック及び護岸本体は、大潮の満潮位及び伊勢湾台風級の高潮に、2019(令和元)年房総半島台風による高波を重ねた、想定し得る最大の高波・高潮による浸水を防ぎます。また、第3防護ラインとして整備した防潮堤は、専門家等による検討会で推奨され、2019(令和元)年の台風19号襲来時に土壌で浸水を防いだ実績を踏まえ、激甚化する台風被害に備えたものです。



・「第1防護ライン」として、直立消波ブロックとパラベットを設置し、越波を防護します。

・「第2防護ライン」として、既設パラベットを嵩上げ、越波を防護し、「間詰石」から海に越波を排水します。

・「第3防護ライン」として、防潮堤を設置し、激甚化する台風被害に備えます。



# 産業団地の取組

2019(令和元)年の台風15号により、護岸背後の産業団地では、約400社が甚大な浸水被害を受けました。こうした中、窮状を知った同業者、災害ボランティアの方々など、全国の多くの皆様から物心両面で心温まるご支援をいただきました。数えきれない方々のご尽力により、今までの機能に加え、災害に強く賑わいを兼ね備えたエリアへと生まれ変わりました。

当時の被災状況や、復旧・復興に向け昼夜惜しまず従事された方々の取組等を、この護岸を訪れた多くの皆様に知っていただくため、写真展示をすることとしました。

ここで取り上げました展示は一部になりますが、産業団地の方々の復旧に向けた取組を感じていただけると思います。是非ご覧ください。



横浜市港湾局

## 台風被害からの復旧・復興

### ○ 現在地付近



### ① 冠水した道路



### ② 土砂が堆積した道路



### ③ 瓦礫で埋もれた道路



### ④ 道路脇に積み上げられた瓦礫



### ○ 事業所内まで押し寄せた高波



### ⑤ 倒壊した護岸部

